

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

(令和8年9月4日発行)

1. 定点把握対象疾患の発生動向 ※栗原支所管内を含む大崎保健所管内

上段は圏域全体で一週間に診断した患者数、下段は一つの定点(医療機関)あたり一週間に診断した患者数。*は急性呼吸器感染症(ARI)に含まれる感染症。

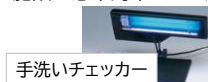
疾 病		疫学週			
		32 週	33 週	34 週	35 週
		8月3日 ~ 8月9日	8月10日 ~ 8月16日	8月17日 ~ 8月23日	8月24日 ~ 8月30日
イ新へ急 ン感型A性 フ染コR呼 ル症ロI吸 エナ〜器 ンウ感 ザイル染 症	急性呼吸器感染症(ARI)	404 80.80	197 39.40	303 60.60	335 67.00
	インフルエンザ *	2 0.40		1 0.20	9 1.80
	新型コロナウイルス感染症 *	2 0.40	1 0.20	1 0.20	2 0.40
小 児 科 定 点	RSウイルス感染症 *	1 0.33	1 0.33		
	咽頭結膜熱 *				
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 *	1 0.33	1 0.33	2 0.67	5 1.67
	感染性胃腸炎	3 1.00		1 0.33	
	水痘	1 0.33		7 2.33	1 0.33
	手足口病	47 15.67	15 5.00	12 4.00	30 10.00
	伝染性紅斑				
	突発性発しん	2 0.67	1 0.33		1 0.33
	ヘルパンギーナ *	32 10.67	10 3.33	9 3.00	18 6.00
	流行性耳下腺炎	1 0.33			2 0.67
眼 科 定 点	急性出血性結膜炎				
	流行性角結膜炎		2 2.00		
基 幹 定 点	感染性胃腸炎(ロタウイルス)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				
	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)				1 1.00
	マイコプラズマ肺炎				1 1.00
	無菌性髄膜炎				
拡 張 疾 患	マイコプラズマ肺炎(小児科)			3	5
	川崎病	2	1		1
	不明発疹症				

大崎保健所管内定点数:内科定点2施設 小児科定点3施設 眼科定点1施設 基幹定点1施設

2. 集団発生状況 ※栗原支所の過去2週間における対応状況

施設区分	保育所	高齢者・障害者施設	医療機関
対応状況	◎	—	—
備考	手足口病		

- ・保健所では管内施設等を対象に感染症予防啓発物品(手洗いチェッカー、CO2センサー)の貸出を行っています。
- ・施設の感染対策として活用ください。



手洗いチェッカー

申込はこちら

3. 栗原支所より

◎:複数対応中、○:対応施設あり、—:対応無し

【全数報告疾病】※栗原支所管内

- ・なし

【定点把握対象疾患の発生動向】

※栗原支所管内を含む大崎保健所管内

- ・手足口病及びヘルパンギーナの患者報告数が高い水準で継続しています。引き続き感染対策を行い、予防に努めましょう。
- ・県内でA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が増加傾向です。学校生活が再開しますから、今後の動向に注意してください。

【集団発生状況】※栗原支所管内

- ・保育施設で手足口病の集団発生がありました。



- ・結核は空気感染する呼吸器感染症で、感染症による死因第1位です。現在も年間約1万人の患者が報告されており、約40%が80歳以上の高齢者です。
- ・多くの場合、感染しても免疫力が結核菌に勝って発病を防ぎます。
- ・結核は、早期発見・早期治療が大切です。定期的な健診を受け、2週間以上続く咳等があれば医療機関を受診しましょう。

【感染症コラム～インフルエンザ～】

- ・例年冬季に流行するインフルエンザですが、今年は第34週時点の定点あたり患者報告数から、2009年に次いで2番目に早い流行シーズンに入りました。
- ・症状は、38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが比較的急速に出現することが特徴です。鼻汁・咳などの症状も見られます。風邪と比べて全身症状が強いことが特徴です。
- ・主な感染経路は、飛沫・接触感染で、予防は手洗いや換気、マスク着用等の咳エチケットが基本です。重症化しやすい高齢者や基礎疾患のある方と接する時はマスクを着用ください。また、消毒はアルコールが有効です。
- ・ワクチンは発症をある程度抑え、重症化を予防する効果があるとされています。今年の接種について御検討ください。

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
☎0228-22-2117 📠0228-22-7594